２０２６年 第４２週　（１０月１２日～１０月１８日）の感染症発生動向調査情報

＜今週の内容＞

１　管内の感染症発生状況

２　腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について

３　ダニ媒介感染症について

４　インフルエンザについて（※依然、注意報レベルとなっています。）

５　今冬の急性呼吸器感染症（ARI）等への対策について

１　管内の感染症発生状況

（１）管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）

第４２週は、報告はありませんでした。

（２）定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

（２０２６年４２週）※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん		COVID－19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
45	15	–	–	–	–	1	0.5	3	1.5	–	–	–	–	–	–	–	–	1	0.33

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎4(ロタウイルス)		急性呼吸器感染症	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
1	0.5	–	–	…	…	…	…	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	294	98

※2025 年４月７日から急性呼吸器感染症が追加になりました。

２　腸管出血性大腸菌による感染症・食中毒予防対策の徹底について

今年の県内の累積患者数は９６人となりました。

抵抗力の弱い乳幼児や低学年の子ども、高齢者を受け入れる施設等については、感染症、食中毒予防対策がより重要となります。県民の皆さまには以下の点についてご注意いただきますようお願いします。

（１）学校や高齢者施設等において、職員及び児童、生徒あるいは入所者等に下痢、血便等の症状が見られたときは、早期に医療機関を受診するよう勧奨するとともに、同様の症状を有する者が複数確認された場合は、速やかに管轄の健康福祉事務所（保健所）へ報告してください。

（２）トイレの後や食事の前には、石けんによる手洗いを励行してください。また、おむつなどの処理をした場合は、手指の洗浄と消毒を徹底してください。

（３）湧き水などの消毒処理がされていない生水は飲まないよう、また、肉類は中心部まで十分加熱処理して食べるようにしてください。

（４）施設等に設置されているプールの水質管理や、水遊び用プールについても水質等の衛生管理を徹底してください。

（５）動物（牛、鳥、カメなど）と触れ合ったり、その排泄物に触れた後は、石けんによる手洗いとともに、必要に応じて手指の消毒とうがいを励行してください。

＜感染症に関する情報＞

◆兵庫県ホームページ

腸管出血性大腸菌感染症について

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

腸管出血性大腸菌感染症

3　ダニ媒介感染症について

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の今年の県内の累積患者数は 10 人、日本紅斑熱の今年の県内の累積患者数は 23 人となりました。

SFTS は SFTS ウイルスを病原とし、主な症状は原因不明の発熱、嘔吐・下痢などの消化器症状、血小板減少、白血球減少などが認められ、重症化数すると死に至ることもあります。潜伏期間は 6～14 日で、治療薬はなく対症療法となっています。一方、日本紅斑熱はリケッチア・ジャポニカを病原とし、主な症状は発熱、発疹、挿し口が赤く腫れ中心部がかさぶたになるのが特徴です。潜伏期間は 2～8 日で、治療にはテトラサイクリン系の抗菌薬等が投与されます。

マダニの活動が活発となる春から秋にかけて、ハイキングや草むらに入る場合は、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする、虫よけスプレーを活用する、帰宅後すぐに入浴し着替えるなどの予防対策が有効です。また、山野へ入った 2 週間以内に発熱や発疹が出たときはすぐに受診し、その時の行動を伝えることが重要です。

＜感染症に関する情報＞

◆兵庫県ホームページ

マダニに注意!ダニ媒介感染症について

◆厚生労働省ホームページ

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について

ダニ媒介感染症

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

つつが虫病

日本紅斑熱

4　インフルエンザについて

管内のインフルエンザの定点あたり患者数は、今週 15.00 人で、先週（6.67 人）から増加しました。

兵庫県内の定点あたり患者数は今週 10.05 人で(先週 10.15 人）と横ばいでした。地域的には、姫路市、宝塚、加古川、加東、福崎、豊岡、朝来及び丹波保健所管内で注意報レベル基準値以上となっています。

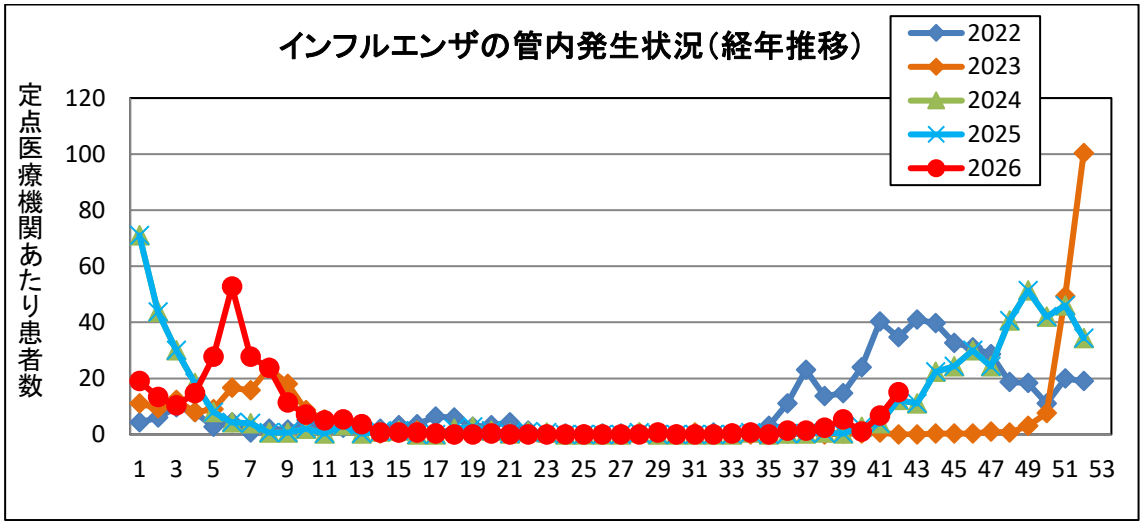
直近の 5 週間に県内の定点医療機関から報告された患者 5,766 人の年齢分布では、5～9 歳が 28%、0～4 歳が 19%で、15 歳未満が全体の 64%を占めています。

臨時休業の県下の施設別発生状況では、今週 64 件（先週 98 件）の報告がありました。内訳は、学年閉鎖 10 件、学級閉鎖 54 件で、施設別では、幼稚園 4 件、小学校 39 件、中学校 21 件です。

基幹定点医療機関においては、入院患者が今週 32 人（先週 23 人）報告されています。

社会福祉施設等においては、今週 5 件（先週 6 件）の集団発生が報告されています。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、手洗いが有効です。また、感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケット、早めの受診が重要です。



＜感染症に関する情報＞

◆兵庫県ホームページ

インフルエンザ疾患の発生状況（学級閉鎖・集団発生）

兵庫県インフルエンザ情報センター

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

インフルエンザ

5　今冬の急性呼吸器感染症等への対策について

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection：ARI)とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RS ウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

冬は、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザをはじめとして、急性呼吸器感染症が流行する傾向にあります。今冬の流行に備え、ご家庭や職場などにおける適切な対応をお願いします。

急性呼吸器感染症の感染予防には、手洗い・手指消毒、マスクの着用を含む咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が有効です。また、感染が疑われる場合には早めの受診を心がけましょう。

＜感染症に関する情報＞

◆兵庫県ホームページ

兵庫県感染症対策センター

◆厚生労働省ホームページ

急性呼吸器感染症（ARI）

令和8年度今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

急性呼吸器感染症（ARI）